

ハイライトよねやま 65

(財)ロータリー米山記念奨学会

2005年7月13日発行

1. 2004-2005年度 寄付金結果発表 ～ 1年間ありがとうございました！ ～

2004-2005年度の寄付金は約14億4千万円。前年度と比べ3.9%減、約5千8百万円の減少となりました。普通寄付金が1.7%減、特別寄付金が4.8%減です。15億円の目標は到達できませんでしたが、依然として厳しい経済情勢である上に会員数も減少するなか、寄付増進にご尽力賜りまして、深く御礼申し上げます。なお、第2590地区【神奈川県横浜市・川崎市】は、一人当たり平均寄付額(26,402円)が10年連続でトップとなりました。

今年度も引き続きご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

2. 理事会・評議員会開催報告

6月30日、東京・新高輪プリンスホテルで2004年度第2回の理事会・評議員会が開催され、全国から33名の理事・監事と61名の評議員、4名の陪席者が出席しました。

今回の理事会・評議員会は、いわば“制度改革会議”というべきもので、2年の歳月をかけて協議を重ねてきた米山奨学事業制度改革の骨子が決定されました。

2006学年度(4月～3月)からの新奨学金制度

| ロータリー米山奨学金一覧 | 月額 | 期間 | 募集システム | 人数 |
|--------------|------|--------|------------|-------|
| 1.学部課程(YU) | 10万円 | 最長2年 | 指定校・学校推薦制度 | 798名枠 |
| 2.修士課程(YM) | 14万円 | | | |
| 3.博士課程(YD) | 14万円 | | | |
| 4.地区奨励 | 7万円 | 1年 | | |
| 5.クラブ支援 | 14万円 | 6カ月か1年 | 世話クラブ推薦 | |
| 6.海外校友会推薦 | 14万円 | 1年 | 海外校友会推薦 | 2名 |
| 7.現地採用 | 7万円 | 博士課程3年 | 指定校・学校推薦制度 | 来期2名 |

新奨学金制度の決定 (右表参照)

優秀だが自費では留学できない学生を海外から招聘する、米山奨学金の原点に帰った奨学金(右表7)や、短大・高専・専修学校在籍留学生を採用できる地域密着の奨学金(右表4)といった新プログラムが決定。そのほか、現役奨学生の奨学期間延長の審査・選考が地区選考委員会に任せられるようになったり、他地区の大学や学校から留学生を採用できたりするなど、地区が自由に裁量できる範囲が増えました。新制度は、2006年4月採用者(2005年10月応募締切)から適用されます。

2006学年度採用数 800名

2006学年度奨学生採用は、奨学資金特別積立金の取り崩しを行わないことを基本方針とし、寄付金収入に見合った数として800名採用が決定しました。

寄付行為の一部変更と関連規程の整備

寄付行為の一部変更と、選考委員会規程など新しい規程が設置されました。これは、平成18年に予定される公益法人制度改革で、財団運営の透明性と理事会・評議員会のガバナンスがより強く問われることになるからです。また、浄財寄付による奨学金の使途と目的を明確にすることによって、当会の“公益性”を立証し、税制上の優遇措置を維持していくための措置でもあります。

今回の制度改革によって、地域発展の鍵となる産学民協同による“知の共同体ネットワーク”造りへの積極的参加が期待されます。また今後は、寄付集めのシステムと実績を見直して、“ロータリー寄付文化”の構築をすることが課題となるでしょう。(常務理事・事務局長 宮崎 幸雄)



.....
 2005年7月下旬に新制度概要冊子『新生！ロータリー米山奨学事業(仮称)』を地区役員・委員およびロータリークラブあてに1部ずつ送付いたします。ご活用ください。追加ご希望は米山奨学会までお知らせください。

3. 新制度オリエンテーション開催

理事会・評議員会終了後、1時間半にわたって新制度のオリエンテーションが開催されました。大丸常務理事、宮崎事務局長から新制度の概要が説明された後、制度の運用に向けた質疑応答や、更なる課題が提起されるなど、新しいスタートに向けた活発な意見交換が行われました。

オリエンテーション参加者によるアンケート（回収数：60）によると、まず、新制度となる“現地採用ロータリー米山奨学金”について、推進派（「積極推進」＋「推進して良い」）が85%と高い評価を得ました。ただし「1人あたりの経費が高いがそれだけ意義のあるものになるか？」という指摘に見られるとおり、慎重に取り組み、成果を生み出すことが課題です。

短大や高専・専修学校を対象とする“地区奨励ロータリー米山奨学金”については、「評価する」が約60%を占めながらも、「どちらとも言えない」（30%）とする意見も少なからずありました。なお、本奨学金導入の諾否は、各地区選考委員会に任されています。このほか、会議運営など全体評価は満足層が70%を超え、意義あるオリエンテーションであったことが伺えます。

4. 『米山学友の群像』が発行されました！



前号でもお知らせした『米山学友の群像』が6月末に発行されました。巣立った米山奨学生たちが、現在どのような活躍をしているのか、ロータリーで体験したことが、その後の人生にどのような影響を与えたのか……。学友の“軌跡”を集約しました。

日本のロータリーが、米山奨学事業を通じて追究する国際奉仕の本質と成果を実感できる一冊として、地区における研修や米山奨学事業の理解促進にお役立てください。本冊子は7月初旬に全クラブへ1冊ずつ送付しておりますが、ご希望があれば米山事務局までご連絡ください。（TEL：03-3434-8681）

5. 学友来訪 ～ 新制度「現地採用奨学金」の橋渡し役 ～

ベトナムの国家プロジェクトであるシリコンバレー構想において、中心的役割を果たす米山学友の一人、ダン・ルオン・モー氏【1966-67／東京大学／東京RC】が、現地採用奨学金制度の実現に向けた調整のために来日しました。
※モー氏の経歴は、ハイライトよねやま63号で紹介しています。



モー氏の談話：

今回、現地採用奨学金のテストケースとして選ばれたことに心から感謝します。ベトナムはいま国づくりの段階ですから、理工学系あるいは法律など社会科学系の人材を養成することが急務です。日本で高度な知識を身につけた奨学生が、帰国してすぐに国家のために貢献できるよう、働きかけていきたいと思えます。

この現地採用奨学金制度の採用数はごく少数ですが、まさに「小さく生んで大きく育てる」の言葉どおり、大変将来性のある制度だと思います。私自身、米山奨学生に採用されてはじめてロータリークラブの存在を知りました。社会のトップレベルの集団として、社会貢献に積極的な人々が存在するという事は大きな発見でした。私と同じように、ベトナムの若者にもロータリーの中で大いに啓蒙を受けてほしいと願っています。

(財)ロータリー米山記念奨学会 編集担当：野津・大庭^{のづ おおぼ}
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 abc会館ビル8階
Tel：03-3434-8681 Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/